

12月26日(水)～2019年1月21日(月) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 稲葉 智美



稲葉 智美

大学在学中よりラジオDJとして活動を始め、首都圏のFM局を中心に数々の番組を担当。Inter FM「Barakan Morning」でアシスタントを務めたほか、J-WAVE「ZAPPA」では選曲/オペレーション/トークをこなすアメリカンスタイルのDJを経験。現在は、JFN「ECO LIFE ～幸せのヒント～」ナビゲーター、SPACE SHOWER TV「スペシャヘッズ」ナレーター。また、情報誌『メトロポリターナ』にて“地下鉄で読むラジオ”がコンセプトの音楽コラムを連載中。

今回のセレクトCD

1.



Richard Crandell / Essential Tremor (Panai / pana001)

ジンバブエの伝統楽器ムビラ(親指ピアノ)で奏でられる本作は、0歳の我が子にオーガニックな音楽を聴かせたいと探しているときに出会いました。ムビラはオルゴールよりも温かくプリミティブな音がします。オレゴン州を拠点とするリチャード・クランデルは元々ギタリストでしたが、Essential Tremor(本態性振戦=手の震えなどが起きる症状)を患ったことでムビラ奏者へと転向、才能を開花させました。アルバム収益金の一部は Essential Tremor団体に寄付されることになっています。楽しく穏やかな気持ちにさせてくれる音楽です。

2.



Témé Tan / Témé Tan (Hostess / HSE-6516)

フランス語で歌われる、陽気なエレクトロ・ミュージック。そして滲み出るワールド感。初めて聴いたとき、どこの国の音楽なのか全くわかりませんでした。テメ・タンの正体は、コンゴとベルギーの血を引くタンギー・ハセヴーツ。アーティスト名の由来は“手・目・タン(本名のタンギーから)”で、日本人の友人がつけたものなのだとか。ズーク、ルンバ、ブラジル音楽、ラップ、コーネリアスなどのジャパニーズ・エレクトロと古今東西の音楽を通過してきた彼は、他に例えようのない独自のサウンドを生み出します。

3.



Conner Youngblood / Cheyenne (Beat / BRC-578)

雄大な自然をバックにピースサインをする青年は、コナー・ヤングブラッド。テキサス出身ナッシュヴィルを拠点に活動するシンガー・ソングライターです。フォーク&アンビエント的な趣向やオートチューン使いはボン・イヴェールを思わせますが、内面的な世界観を構築するジャスティン・バーノンに対し、彼は実際に旅した数々の地名に紐付け、音の絵の具を重ねながら微細なタッチで風景の記憶を描き出します。コナー・ヤングブラッドの幽玄な音世界に浸っていると、旅先で絶景に身を委ねたときの幸福感が蘇ります。

4.



Laura Marling / Semper Femina (More Alarming / MORAMR001CD)

“女性性の再考”は近年の音楽シーンでもホットなテーマ。「常に女性である」という題名の本作には、イギリスのフォーク・シンガーのローラ・マーリングが考察した女性らしさが詩的に表現されています。美しいものに心を奪われる。同性からの視線を意識する。失敗と反省。手放したくない自由。気まぐれで移り気。…ふむふむ、その節はあるかもしれません。アラバマ・シェイクスを手掛けたブレイク・ミルズをプロデューサーに迎え、オーセンティックながら瑞々しいサウンドのフォーク・アルバムに仕上がりました。

5.



Kiefer / Happysad (Stones Throw / STH2398)

ブレインフィーダー勢を筆頭にジャズとヒップホップの融解が進むLAから、また新たな才能がデビューしました。キーファーはピアニストでありプロデューサー。幼少期から身につけた正統派ジャズの素養と、ビート・メイカーとしての創造性が見事にマッチしたデビュー・アルバムです。ヒップホップに開眼するきっかけになったというロバート・グラスパーにも通じる洗練されたクロスオーバー感覚を持っていて、ドープなビートを鳴らしているにもかかわらずスムーズで軽やかな耳触り。このレイド・バック感、最高です。